

釧路市教育委員会 令和8年第3回2月定例会会議録

- 1 日時：令和8年2月18日（水）13時30分から15時30分まで
- 2 会場：釧路フィッシャーマンズワーフMOO 2階 教育委員会室
- 3 出席者
岡部義孝教育長
(教育委員)
大山稔彦委員、小出美貴子委員、靱山彩子委員、金安真人委員
(事務局)
澤口学校教育部長、工藤生涯学習部長、本川教育指導参事、司口学校教育部次長、臺野施設計画主幹、三浦教育政策主幹、渡部給食担当主幹、大島学校指導課長、齊藤総括指導主事、鈴木北陽高等学校長、及川北陽高等学校事務長、曾根美術館長、秋葉博物館長、内海生涯学習課長、平野ふれあい主幹、北村阿寒教育事務所長、長谷地音別教育事務所長、木嶋学校教育課総括係長
- 4 議事録署名人 大山委員 小出委員
- 5 傍聴人数 0人
- 6 提出案件

【公開案件】

報告事項

- (1) 「学びの多様化学校」開校準備状況について
- (2) 釧路北陽高等学校の景文高級中学（台湾）への短期研修の実施について
- (3) 学校の現状について

7 会議内容

【公開案件】報告事項

(1) 「学びの多様化学校」開校準備状況について

(大島学校指導課長)

報告事項1、「学びの多様化学校」開校準備状況について報告する。

先月までの報告事項と重複する部分もあるが、あらためて説明する。はじめに、面談及び審査会についてである。12月13日以降述べ5日間にわたって、指導主事や心理士を中心に、児童生徒と保護者それぞれとの面談や、児童生徒に対するストレスチェックを行い、その結果をもとに「入学・転入学審査会」を実施し、計20名を承認したところである。なお、入学及び転入学予定者の内訳については、令和8年度の学年で中学1年生が4名、2年生が7名、3年生が9名となっている。また、生徒数が概ね確定したことから、教職員の体制についても当初の想定通り、教頭を含め教員が9名、その他養護教諭1名、事務職員1名が配置される見込みとなっている。今後については保護者に対し、2月28日(土)に中央小学校で入学説明会を行うこととしており、また、この場には、生徒にも参加いただきたいと考えている。開校式については、4月8日(水)の午後に、中央小学校の体育館にて、入学・転入学式と合わせて行う予定としている。生徒に極力負荷をかけないようなプログラムを組むことや、ご案内させていただき皆様との紹介等は省略するなど、最大限に配慮した内容で実施したいと考えている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり

(大山委員)

いよいよ開校だと感じている。ここに至るまでに、きめ細かく私たちへ報告を行っていただいているので、今は安心して開校準備を進めていただきたいと思います。特に先生方には期待しているので大変かと思うが、頑張ってくださいと改めて伝えていただければと思う。

(小出委員)

これまで準備を進めていただきありがたく思う。スクールビジョンにもあるとおり、子どもたちが自分らしく安心して過ごせる場になるように、これからも見守っていききたいと思うので、よろしく願いしたい。

【公開案件】報告事項

(2) 釧路北陽高等学校の景文高級中学(台湾)への短期研修の実施について

(鈴木北陽高等学校長)

報告事項2、釧路北陽高等学校の景文高級中学(台湾)への短期研修の実施について報告

する。

釧路北陽高等学校では、令和8年3月2日から3月8日までの6泊7日の日程で、台湾・景文高級中学への短期研修を実施する。本研修は、令和7年11月に締結した姉妹校協定にある「ホームステイ体験等の促進」に基づく交流事業の一環として実施するものであり、本校としては初めての取組となる。今年度は、1年次生4名が参加することになっている。

台湾での研修内容としては、景文高級中学の授業に参加し、主に英語や芸術等の授業体験、交流ワークショップを行うほか、ホームステイによる台湾の生活体験などを予定している。また、本研修においては事前学習を重視している。多様な台湾の民族文化に関する学習や、釧路市配置のALTの方を活用した、日常的に用いられる台湾の言葉・コミュニケーションに関する学習なども行うこととしており、参加生徒は、高い意欲をもって事前学習に取り組んでくれている。

本研修を通じ、姉妹校である景文高級中学との友好を深めるとともに、研修成果を参加生徒だけではなく校内全体で広く共有して、その成果が校内全体へ波及することを狙っている。次年度は、このような海外短期研修の取組を拡大し、スクールミッションである国際的な視野を持った人材の社会提供を促進するとともに、学校の特色化・魅力化につなげていきたいと考えている。

◎この報告について、各委員から次の通り発言あり

(金安委員)

とても面白い取組であると感じている。可能性があると思うため、今後他の高校や小中学校に広げていく考えは教育委員会であるのか。

(岡部教育長)

北陽高校で台湾以外に、今検討されていることを言える範囲で、説明していただければと思う。

(鈴木北陽高等学校長)

北陽高校としては、アメリカのオースティン・ピー州立大学と姉妹校になっているため、そちらへ短期研修を考えているほか、フィリピンも検討しており、また国内でも多文化について学べる余地があると思うため、事業拡大を行っていきたいと考えている。他校を巻き込むことについての判断は難しいが、可能性はあるものと思う。

(金安委員)

身近な人が体験しているとより関心を持ちやすいと思うため、連携がなされれば良いと感じたため確認をさせていただいた。

(鈴木北陽高等学校長)

湖陵高校や江南高校等も同じような研修を行っていると聞いているため、例えば生徒を集め、意見交換や発表会を実施するなど相談してみたい。

(岡部教育長)

小中学校においても、今年度よりALTを増員させていただき、国際教養教育というのは、今後の教育の1つの柱になっていくことは間違いないと思う。釧路市もこのような取組を通して、今後さらに進めていきたいと考えている。

(靱山委員)

2日から3日までは教員が引率し、その後は引き継がれるということだが、引率した先生はその後何をするのか。

(鈴木北陽高等学校長)

学校に戻ってくる。

(靱山委員)

4日に帰ってくるのか。

(鈴木北陽高等学校長)

はい。基本的には受入れ先の教員が対応をするため、今後同じような形で短期研修を迎える場合は、基本的に我々が対応することを考えている。知っている教員が居ると甘えてしまうため、その点は生徒に頑張ってもらい、補助は現地でしっかり行っていくこととしている。但し1年生は初めての経験であるため、スタートアップの部分だけは、北陽高校の教員がフォローすることを目的に今回1名引率としたところである。

(靱山委員)

北陽高校の教員も現地の教員と交流する機会があれば、良い経験になるかと思い、質問させていただいた。

(岡部教育長)

鈴木校長が積極的に交流されたことにより、こんなに早く施策として実現されたことを嬉しく思っている。詳細は未定であるが、今年度も景文高級中学の子どもたちが釧路に来ていただくことも概ね決まっているため、お互いの交流は一層深まっていくものと思っている。

【公開案件】 報告事項

(3) 学校の現状について

(本川教育指導参事)

報告事項3、学校の現状について報告する。

2月に入り受験シーズンが本格化し、先週の2月10日には公立高校の推薦入試、13日には武修館高校を含む道内私立A日程、昨日17日にはB日程の私立高校の入試が実施された。また北海道の公立高校の一般入試は3月4日、5日に行われる予定となっている。そのような中、市内の小・中学校ではインフルエンザや一般的な風邪、そしてコロナを含めた欠席者が増加傾向にあり、市内の学校でも学級閉鎖や学校閉鎖も相次いでいる。特に中学校3年生については受験真ただ中ということもあり、当然ながら小学校中学校ともに児童生徒や教職員の健康管理と予防には十分に留意するよう、あらためて各学校には啓発している。

戦後80年企画の1つとして、釧路市の元教育長である角田憲治さんによる、小学生対象

の「戦争時代の体験を聞こう」という特別授業が、このたび市内7校で予定され、これまで6校で実施済みで、残るは明日19日に鶴野小学校で行われると、7学校すべて終了となる。角田さんは89歳という高齢ではあるが、内容や話し方なども毎回付いていく担当指導主事によると、非常に毎回ブラッシュアップされてきており、当時の新聞記事の写真などを用いて、自らの戦争体験、釧路空襲の体験などのお話を子どもたちにわかりやすく語りかけてくださり、どの学校でも大変好評を得ている。先週12日に行われた城山小学校での講話には私も参加したが、まさしく貴重なお話で、子どもたちも、また参加した数名の先生方も真剣に聞き入っていた。

授業評価の実施状況をこの度あらためて、小学校中学校義務教育学校に確認をしたところ、すべての学校で実施されていることが確認できた。その様式については令和4年度に釧路市の小中学校校長会で導入したものと同様、もしくはそれを少しアレンジしたものが大半で、その他独自の様式で行っている学校もある反面、中には学校評価に入れ込んで実施している学校も数校あった。現在、1校ずつ来庁していただいて学力協議Ⅱを実施しているが、いわゆる授業評価の実施の仕方であるとか、その活用の仕方にはかなり学校によって差異があるということがみられた。あらためて全校統一で最低限やってもらうと、各学校に任せるなどを整理して、新年度からは授業評価を学校の授業改善に効果的に発揮するように組み込んで進めたいと考えている。いずれにしても肝心なのは、その授業評価をいわゆる子どもの声をどのように生かして授業に反映するのか、そしてここには校長の強いリーダーシップとマネジメント力が関与するののかというあたりを、新年度に向けて少し力を入れていこうと考えている。

併せて、授業に限らず学校経営に子どもたちの声を反映することは重要なことだとの岡部教育長の思いも校長会議で伝え、今月の釧路市議会2月定例会での教育行政方針をしっかりと校長はもとより先生方もあとで直接聞く、もしくは書面を見ることを含めて理解するように校長会議にて伝えたところである。

釧路市標準学力検査の結果と分析については後ほど総括指導主事から報告させていただくが、私からは校長会議の際に、是非とも平均正答率に終わらず、自校の学年別教科別のちらばりの様子、いわゆる標準偏差にも着目し、それに応じた対策を講じていくことについて、校長会議で伝えたところである。

◎この報告について、各委員からの次のとおり発言あり

(大山委員)

授業評価は、本川参事が校長会長の際に全校へ導入してからだと思う。大変良い取組なのだが、教員の評価と授業評価への活用は上手くいっているのか。

(本川教育指導参事)

実施しているが、当時の充実度は下がっていると感じている。もう一度明確にして、再度新学期からは機能するようにしたいと考えている。

(大山委員)

導入したときの趣旨を大切にしながら、ぜひ継続してもらえればと思う。

(小出委員)

戦後80年企画「戦争時代の体験を聞こう」は戦後80年ということで今年度企画し、実施したものか。

(本川教育指導参事)

はい。

(小出委員)

内容も大変良かったということで、今年だけではなく今後も続けていただければと思った。

(本川教育指導参事)

内容については、学校にも説明の上、録画している。今後、例えば郷土読本くしろにQRコードを掲載し読み込むことで、動画が見られることを考えており、今の時代に合わせ、動画配信を含めた啓発も考えている。併せて小出委員のお話のとおり、角田さんの体調が万全であり、戦後80年企画に拘らず行っていただけるのであればお願いしたいと思っている。

(岡部教育長)

戦前の生まれの方は、日本全国で恐らく1割程度しかいなくなっているかと思う。こういった実際に被災を体験された方々の声というのをどうやって残していくかというのが、今後重要になってくる。残し方について検討していかなければならない時期なのだと改めて思った。